

## 総合的な学習の時間 学習指導案

菊池市立菊池南中学校

教諭 河本健二

1 単元名 「放送委員会の私たちにできることは？」

### 2 単元の目標

- 他教科で得た知識を生かし、様々な情報と関連付けながら、安心して暮らしやすい社会について理解し、言葉や図などを用いてまとめたり発信したりすることができる。  
(知識及び技能)
- 誰もが暮らしやすい社会を目指して、収集した情報をもとに課題を見だし、その課題の解決策を考えたり、考えたことをまとめたり、他者に伝えたりすることができる。  
(思考力・判断力・表現力)
- よりよい社会をつくるという目的意識をもち、福祉について自分事として捉え、自分たちにできることを考えようとする。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、地域貢献や福祉という側面から持続可能な社会の創造を目指す資質・能力の育成を図ることができるよさがある。社会にはさまざま特性のある人たちが一緒に暮らしており、生徒たちはそれらの人たちと関わりあい助け合いながら生活している。しかし、このことに気づき、意識しながら生活している生徒たちは少なく、自分には関係のないことだと考えている様子がよく見られる。

しかし、お互いに助け合いながら、誰もが暮らしやすい社会をつくっていくためには、一人一人の意識が変わり、行動が変わることが大切である。生徒にとってここでの学習が意識や考えを変え、行動を始める一つの機会になってほしいと思っている。また、自分たちが未来の社会や地域を創る存在だということに改めて気づき、自身の生き方を考えてほしいと思っている。

#### (2) 生徒観

本校は、校区内に4つの小学校があり、生徒たちは新たな出会いの中、日々人間関係を模索し、自分の安心できる居場所を探しながら生活している。一方で、学校生活の中では、互いを思いやる行動に課題が見られることもあるため、進んで地域のために行動しようとする姿の実現にはまだまだ程遠いのが現状である。

放送委員会は、各クラス2～3名の生徒たちが所属しており、合計39名で活動している。今回の学習を通して、持続可能な社会の創り手である生徒がよりよい生き方について自分の考えを深め、日常に変化がもたらされるようにしたい。

### (3) 指導観

本単元では、①生徒たちが問いを持ちながら活動を進めていくこと、②講話や体験を取り入れることで実感を伴った活動にすること、の2点を大切に学習を進めていく。

①について、本単元では、「放送委員として、地域のためにできることは何だろうか?」、「目の不自由な方々のためにできることはないだろうか?」、「文字での情報を音声で伝えるには、どのようなことを意識すればよいただろうか?」、「地域や他社に貢献するため大切なことは何だろうか?」という流れで問いを持たせたい。そして、この問いを自分ごとのものにしていくために、②の講話や体験を取り入れていく。例えば、目の不自由な方々のためにできることを考えるときは、実際に目の不自由な方や市役所の福祉課の方をお招きして講話を聴く機会を設けたり、目の不自由な方の日常を体験するアイマスク体験などを取り入れたりする。また、音訳ボランティアの方々と継続して関わりをもたせるようにして、その中で実際に音訳を体験させてもらったり、どのような思いで活動をしているのかを聞いたりさせることで、学びをより深いものにしていきたい。

### (4) ESD との関連

#### ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性：社会は様々な人たちが関わり合っており、いろいろなところで助け合いながら生活していることを理解すること。

連携性：誰もが暮らしやすい社会をつくるために様々な人々が協力・連携して取り組んでいることを知り、自身でも社会や地域の一員として協力・連携して行動していこうとする思いを抱くこと。

#### ・ESD で育てたい資質・能力

多面的・総合的に考える力

- ・様々な人の立場になって考えることで、多様な面があることを理解する力

コミュニケーションを行う力

- ・自分の考えや思いを伝えるとともに、まわりの考えも尊重し、積極的にコミュニケーションをとりながら、解決方法をまとめることができる力

進んで参加する態度

- ・地域社会の一員としての責任を自覚し、問題を解決するための方法を考えようとする態度
- ・グループの中で自分の役割を理解して主体的に話し合いに参加する態度

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

自分たちだけでなく、様々な人たちが安心して過ごせる街づくりが大切である。

人権・文化を尊重する

社会的に弱い立場にある人も皆、安心して過ごせるように努めなくてはならない。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

自分たちだけが幸せであることが、将来的にも幸せであるとは限らない。

・達成が期待される SDG s

3 すべての人に健康・福祉を

11 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
課題解決に向けて地域の人々が様々な思いや願いをもって生活していることを理解している。また、情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	自分や他者の思いを踏まえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しを持って追究している。また、活動の過程や結果、成果などを適切な方法を選びながら分かりやすく整理して表現している。	積極的に地域に関わることで関心を深め、つながりを意識して地域のために行動(生活)しようとしている。また、自分の学びを振り返り、評価・改善しながら課題解決に向けて取り組んでいる。

## 5 単元の指導計画

○学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
1 単元の目的を全体で共有し、調査計画を立てる。	○地域に貢献するという大きなテーマに向かって、放送委員としてできることを考えることから始め、音や音声を使った地域貢献に目を向けさせたい。	ア (知・技)
2 市役所福祉課の方の講話を聞き、視覚に障がいのある方の現状を知る。	○菊池市の現状について話をしていたくことで、自分たちの身近なことの話であることを理解させる。	ア (知・技)
3 視覚に障がいのある方の講話を聞き、アイマスク体験をする。	○直接困りごとを聞くことで、文字での情報を音声することの重要性に気づかせ、音訳ボランティアの方たちへの興味を高めたい。	イ (思判表)
4 音訳ボランティアの方のお話を聞き、活動について理解する。	○活動内容について理解を深めるとともに、どのような思いで活動をされているのかについて触れさせたい。	ウ (主体的)
5 広報誌の録音に向けて、シナリオを作成し、音訳の練習に取り組む。	○「文字での情報を音声で伝えるにはどのようなことを意識すればよいか。」という問いを立て、聞く人の立場になって考えることの大切さに気付かせたい。	ウ (主体的)
6 広報誌の録音に取り組む。	○音訳ボランティアの方々に協力していただき、実際に録音を体験させる。聞く人をイメージさせながら取り組ませたい。	ア (知・技)
7 活動内容や自分の学びをまとめ、成長を振り返る。	○「地域や他者に貢献するために大切なことは何だろうか。」と問いかけ、今回の活動で得られた経験をもとに振り返らせる。	ウ (主体的)